



2026春闘を職場・地域から連帯して闘おう！ ⑤

低額回答は許さない！ イカサマ回答はやめろ！ 2026春闘第2回団交

本部は本日、2026年度賃金引き上げ、夏季手当及び諸要求の申し入れについての第2回団交を開催し、会社から申し入れに対する回答が示されました。会社回答は「そのような考えはない」のオンパレードでした。

2026年3月期、第3四半期決算は連結で15,141億円の営業収益を計上し、通期予想では19,690億円と上方修正しました。また、年末年始輸送量は460万7,000人の利用があり、前年比107%となりました。

これは、私たちが要求している賃金引き上げを抑制したり、労働条件改善を拒否する理由がないということです。JR東海の昨年のベアは極わずかの8,000円で、JR本州3社では一桁低い低額回答でした。そして、世間相場を大きく下回り、格差がより拡大しました。しかも3年連続で、あたかも賃金が大幅に改善されたかのようなプレス発表をしたことについて、本部は「世間や社員をだまし打ちをするイカサマ回答は絶対にするな」と、予め強く主張しました。

一方、低額回答を支えたのが、言うまでもなくJR東海ユニオン指導部です。今春闘のベアの要求額は、昨年のJR東日本と西日本の妥結額より低い金額です。組合員に対して、要求の根拠をどう説明するのでしょうか？

会社は、11兆円に膨れ上がったリニア建設費が経営を圧迫していることから、昨年の年末手当同様に低額に抑え込むことが予想されます。リニア建設は直ちに中止すべきです。

JR東海労は、職場の他労組組合員の意見もぶつけながら、満額回答を目指し闘います。